

鯖江市教育委員会
鯖江市社会教育委員会
丹南愛護センター鯖丹支所
発行

はぐみ

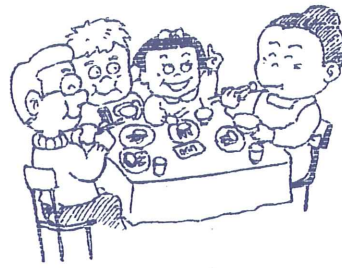
家庭教育を考えるシリーズ

しつけは親の責任

◆しつけのチャンス

幼児期の子どもは、親の教えを何の疑問もなく受け入れます。このように何の問題もない年頃のように考へがちですが、大変重要な時期なのです。

中・高校生になってから見られるいろいろな問題行動の芽は、この時期に潜んでいることが多いからです。だから、社会性の基礎を形成するこの時期は、しつけを行う大きなチャンスです。



あるとともに、心してしつけに取り組む時期でもあるのです。

◆善悪の判断を身につける

思春期になってから反社会的な行動をする子どもをみますと、この時期に悪いことをした時、厳しく叱ら

涓滴

「健康での子。ただび明るいというだけでなく、もつと考えて行動する子。のびのびしているだけでなく、していいこと、悪いことを明確にとらえた子が望ましい。

人間がいかに自然で野性的であった方がいい、といっても、裸体ではありえないように、人間にはその時代に応じた衣服を着る必要がある。その衣服が躰ではないかと思う。これは、田

れたり、教えられたりした経験が乏しいようです。火遊びや、危険な遊びをしてはいけない。

。自分より弱い子をいじめたり、体の不自由な人や不幸な人からかったり笑うものにすることはない。等

中澄江さん(作家)の意見である。

しつけという字は、身と

美で成り立っている。身と花とでもいい。字の意義は、札儀作法など身につけさせること。身についた札儀作法のことである。ちなみに身に空(から)をつけた躰を

こんな子にだけはしたくない

「まぬけ」と読む。(大漢語林)とところで躰は「こんな子にだけはしたくない」から

しつける親の態度五か条

武田頂子(教育評論家)による

- 一、自信をもって……一貫した方針をもって親の思いを伝える。
- 二、他人に任せない……親の責任において、親子のきずなをつくる。
- 三、当てにしてやる……として存在を認め、信頼関係をつくる。
- 四、物でつらな……安易に物を与えず、成就感を味わわす。
- 五、しつかるまでやる……しつかり身につくまで反復して行う。

絶対にしてはならないこと、きちんと子供に分かる、始めるのが一番いいという。ことあらたまって、さて躰とは、と考えだすとなかなか面倒。結局なんにも手が出せなくなる。やはりそこから始めるのがいいよつである。

でも用心してほしいのは、地球上に数多くの動物が存在するが、そのうち人間だけは「育てられたものに似る」ということだ。これを忘れてはいけない。子どもは躰は反面、親の生活態度が問われていることでもある、ということだから。

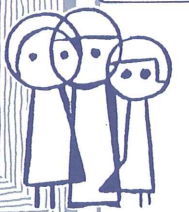
編集後記

今回から三回にわたり、「しつけ」について取り上げます。しつけは、あせらず、根気強く、責任をもって進めていきたいものです。次号では、小学校時期について考えてみたいと思っております。御意見御感想をお寄せいただければ幸いです。



5号
考えてみましょう、子どものしつけ (その1)
——幼児期を中心として——
(鯖江東幼稚園 園児)

子どもには
批評よりも手本が必要である。
〈シニユーベール〉



考えてみたいしつけ

―よき社会人となる基礎は幼児期から―

家庭の教育力低下が指摘されている今、子どもの「しつけ」についてみなさんとともに考えたいと思います。

◆明るいあいさつ

ある幼稚園の玄関に「ここにこあいさつ元気な子」と掲げてあります。

まさに、明るいあいさつは、家族の交流を深め、社会生活を営むうえで大変重要な役割をもっているといえます。

―一番身近な両親、兄弟姉妹、祖父母等に元気にあいさつができるように、さら

に近所の人たちや地域の人たちとも明るくあいさつを交わすことができるように育てたいものです。

明るいあいさつをするこ
とによって、人間関係に
るおいと温かさが生まれ
てきます。幼児の頃から
そうした習慣を身につけ
ることが大切です。

「おはよう」
「いってまいります」
「こんにちは」
「ありがとう」

◆元気に「ハイ」

幼児であっても家族の一員として大切にされているという気持ちを育てるため
に、「○○君」、「○○さん」
などと名前を呼ぶことが大
切です。そして呼びかけに
対して、明るい「ハイ」と

「さようなら」
「こんばんは」
「おやすみなさい」

「いただきます」
「ごちそうさま」
「すみません」 等

いう返事で答えさせるよう
にしましょう。

こついで呼びかけと返事
が、会話をはずませ、家族
のコミュニケーションを充
実させることになるので
この時期にしつけられたこ
とが、将来社会に出てもよ
い人間関係をつくるうえで
生きてきます。

あとかたづけはきちんと

遊んだあとのおもちゃを自分できちんとと
かたづけられる。食事のあとしまつや、読み
み終えた本、洗面のとき使った歯ブラシ
やタオル、脱いだパジャマなど、きちんと
と整理整頓ができるようにすることが大切
です。

◆はきものはそろえて

便所のスリッパなどを使
ったあと、次に使う人がは
きやすいようにきちんとそ
ろえて脱げるように。これ
も大事なことです。

幼児の頃から、自分のこと
とだけでなく、他人のことも
考えるようしむけていく
ことも大切です。

○友達同士、朝のあい
さつができない。
○トイレのスリッパを
そろえて脱げない。
○大きい声で返事がで
きない。
○脱いだ衣服を自分で
たためない。
○用便のあと手洗いが
できない。
○床に置いてある本や
ハキモノ
等もきち
んとそろ
えて脱げ
る習慣を
身につけ
させるこ
とも必要
です。

今、幼児の間で 気がかりなこと。

新聞を平気でふみつ
ける。
○食器を手にもって食
べられない。
○食事のときの姿勢が
悪い。
○箸の持ち方が正しく
できない。
○がまんをすることが
できない。



教育は母のひざに始まり、幼年時代に伝え
聞くすべての言葉が性格を形成する。

〈ハロー〉